

研究論文

日本語と韓国語の四字熟語の比較に関する新しい試み

鄭 芝淑
(鹿児島大学)

On Four-Character Idioms in Japanese and Korean:
A New Contrastive Attempt

JEONG Jisuk
Kagoshima University

要旨

本稿では、日本語と韓国語の四字熟語の比較に関する新しい試みとして、四字熟語辞典を資料として作成した四字熟語リスト（FIリスト: Four-Character Idiom List）に基づいて分析を行った。この方法によって、比較対象の四字熟語の選定を客観化することで分析の信頼性を高めると同時に、四字熟語の定義という厄介な問題を回避することができる。

日韓の FI リストの比較により次のような分析結果が得られた。

- ① 日本ではことわざ辞典の中に四字熟語が含まれることが、韓国に比べて顕著に多い。これはことわざに対する意識の違いの差によるものと思われる。
- ② 日韓ともに FI 度数の高い四字熟語は大多数が中国起源であると考えられる。
- ③ 日本では FI 度数が高いが韓国では低い四字熟語には、中国語に同じか類似の表現のないものが 8 割強ある。これらのほとんどは日本で独自に作られたものと考えられる。
- ④ 韓国では FI 度数が高いが日本では低い四字熟語には、中国語に同じか類似の表現のないものは 3 割強に過ぎない。これらのほとんどは韓国で独自に作られたものと考えられる。
- ⑤ 同じ漢字文化圏に属していながらも、日韓で独自に作られた四字熟語の数に顕著な違いが見られるのは、日韓両文化の中国・中国語との距離の違いによると思われる。
- ⑥ FI リストの度数とコーパス調査による使用頻度の間には緩い相関があるように思われる。しかし、FI 度数が表す四字熟語の重みは複合的な概念であり、使用頻度はそれを規定する基準の 1 つに過ぎないため、この相関に反する例は多数ある。

Abstract

The aim of the present paper is to present a new approach to comparing the

four-character idioms in the Japanese and Korean languages. This was started by making four-character idiom lists (FI lists for short) which are necessary for objective and non-arbitrary selection of the four-character idioms to be compared. The lists are made by the same method as that for PS lists (Paremiological Spectral lists) which had been created for comparing Japanese and Korean proverbs. On the basis of the Japanese and Korean FI lists, major four-character idioms of the two languages are compared from several points of view.

Key Words : 四字熟語、FI リスト、ことわざ、PS リスト

Four-Character Idiom, Four-Character Idiom List, Proverb,
Paremiological Spectral List

1. 四字熟語比較の方法論的問題

日本でも韓国でも四字熟語あるいは四字成語などと呼ばれる表現がよく用いられている。その多くは中国語起源のものであり、日韓で共通するものが多い。両文化が漢字文化圏の中で言語を発展させてきたことの証の一端である。しかし、日本と韓国で独自に作られたものもあり、また、使い方や使用頻度、表現形式などにも違いがあることも予想される。日韓の四字熟語を体系的に比較した先行研究はほとんどないのが実状である¹。これまで四字熟語は主として外国語としての韓国語教育の観点から取り上げられてきた。そこでは、学習上必要と判断されるいくつかの四字熟語を取り上げて、日韓の異同を対照させるという手法がとられるが、外国語学習の素材としての性質上、取り上げられる四字熟語の数は限られており、共通点よりも相違点の方を強調する傾向がある。例えば、『「ハングル」検定公式ガイド合格トウミ』²では148件の四字成語を取り上げて出題内容の一部としているが、日韓で共通するものも含まれてはいるものの、日韓の違いを強調した選択になっている。こうした扱いでは、日韓の四字熟語の全体像をつかむことはできない。

日韓の四字熟語を総合的、体系的に比較してその全体像を明らかにするためには、まず、比較すべき四字熟語群をどのように選定するかという問題から始めなければならない。一口に四字熟語と言っても、おそらくその数は数万に上ると思われる。それらをすべて比較の対象とすることは不可能でありまた不必要なことであるため、そのうちの一部を選んで考察の対象とするという作業が出発点となる。選定の仕方によって考察結果が大きく左右されると予想されるため、選定の手順は客観的なものであり、かつ有意義なものでなければならない。そうでなければ、分析結果は説得力を持ちえない。従来、日韓の四字熟語について信頼できる体系的研究がなかったのは、この比較対象を選択するための有効な手順がなかったためであると考えられる。

本稿では、筆者がすでに日本と韓国のことわざ分析に用いた方法が、四字熟語の分析にも適用できると考え、これによって比較の対象となる四字熟語群を客観的に選択することを出発点とする。鄭芝淑(2007)は、ある文化のことわざは同じ資格を持つことわざの集まりではなく、その文化の成員の誰もが知っていてよく使っている中核的なことわざから、ほとんど誰も知らず使うこともない周辺のなものまで、さまざまに「重み」の異なることわざの集合であるにとらえるべきであると主張した。重みの変異は光のスペクトルのように連続的、段階的なものであると考えられることから、各文化のことわざの総体を「ことわざスペクトル」(Paremiological Spectrum)と呼んだ。そして、ことわざのスペクトル的な重みの変異を反映したリストを「ことわざスペクトルリスト」(Paremiological Spectral List)、略して「PSリスト」(PS List)と呼ぶことにした。比較分析に必要なPSリストを作成する方法として、さまざまな方法を検討した結果、出版されている多数のことわざ辞典やことわざ集の見出し項目を資料とする方法が最も適切であると判断した。簡単に言えば、多くのことわざ辞典に収録されていることわざほど重みが大きいとみなし、あることわざを見出しとして収録している辞典の冊数をそのことわざのPS度数とする方法である。この方法によって、日本のことわざについては43段階のPSリスト度数区分を持つ総件数12,251件のPSリストが得られ、韓国のことわざについては度数区分28段階、総件数8,446件のPSリストが得られた。PSリストが得られたことにより、分析の目的に応じて、それぞれの文化の代表的なことわざを客観的に選択できることになった。PSリストは特定の一個人の産物ではなく、多数の辞典編纂者の考えを集約したものであるため、それに基づいて比較の対象を選べば恣意性を排除することができ、考察の説得力を維持することができるのである。

この方法は、比較すべき四字熟語の選択にも適用できると考えられる。四字熟語も、ことわざと同様に、よく知られよく使われる中核的なものからほとんど知られておらず使われることもない周辺のなものまで、さまざまに重みの異なるものの集合であると考えられる。そして、ことわざ辞典ほどではないが、日本でも韓国でも重みづけリストを作成するのに足る数の四字熟語辞典が出版されている。したがって、本稿の研究は、PSリストと同じ手順で四字熟語の重みづけリストを作成することを出発点としている。以下、四字熟語辞典調査によって作った重みづけリストをFIリスト(Four-Character Idiom List)と呼ぶことにする。

FIリストを分析の出発点とすることは、四字熟語に関する最も基本的で厄介な問題を回避することにもなる。それは、四字熟語をどのように定義するかという問題である。今では「四字熟語」はかなり定着した名称となっているが、それほど古くからあったわけではない。それ以前は単に「成語」あるいは「成句」などと呼ばれていて、四文字のものに限定されてはいなかった。ただ、四文字からなるものが圧倒的に多く、効果的な表現としてよく使われていることから、国語教育の素材や国語能力の指標として急に注目されるようになり、次々と四字熟語の名称で辞典が出版されるようになった。その間に、何を四字熟語とみなすかについては定義されないまま、受け入れられてしまった名称である。もっとも広く解釈すれば漢字四文字からなる表現はすべて四字熟語ということになるが、一般に

はより限定された表現を指している」と解釈されている。そこには表現の熟合性や伝統性などが考慮されていると思われるが、絶対的な基準ではない。そのため、四字熟語辞典に収録される表現の範囲はさまざまであり、中には狭義の四字熟語とは思えないものも含まれている。1冊の辞典だけを対象として考えると四字熟語の定義を問題にしなければならないが、多数の辞典を資料として作成されたFIリストでは、この問題は自然な形で解消できる。狭義の四字熟語とみなしにくい表現が多く、多くの辞典に収録されることはない」と予測され、定義の問題に立ち入らなくてもふるいかけられるためである。

2. ことわざと四字熟語

まず、ことわざと四字熟語との関係を簡単に見ておきたい。ことわざ辞典のなかに四字熟語が含まれることがある。筆者の作成した日韓のPSリストに含まれる四字熟語に注目すると、日韓でかなりの違いがある。日本のPSリストにはかなり多くの四字熟語が含まれている。上位1,550件(度数14以上)の中に次の80件が見られる(括弧内の数値はPS度数)。

- | | | | | | |
|-----|----------|----------|----------|----------|----------|
| (1) | 岡目八目(31) | 我田引水(30) | 器用貧乏(29) | 十人十色(29) | 油断大敵(29) |
| | 羊頭狗肉(29) | 一石二鳥(28) | 四面楚歌(28) | 竜頭蛇尾(28) | 大器晩成(27) |
| | 五里霧中(26) | 才子多病(26) | 一日千秋(26) | 呉越同舟(26) | 一挙兩得(24) |
| | 佳人薄命(24) | 自業自得(24) | 朝令暮改(24) | 馬耳東風(24) | 一蓮托生(23) |
| | 一刻千金(23) | 臥薪嘗胆(23) | 杓子定規(23) | 朝三暮四(23) | 以心伝心(22) |
| | 弱肉強食(22) | 白河夜船(22) | 千載一遇(22) | 二束三文(22) | 一網打尽(21) |
| | 海千山千(21) | 針小棒大(21) | 大同小異(21) | 單刀直入(21) | 三日天下(21) |
| | 無芸大食(21) | 一攫千金(20) | 天衣無縫(20) | 八方美人(20) | 三日坊主(20) |
| | 偕老同穴(19) | 頭寒足熱(19) | 玉石混淆(19) | 暗中摸索(18) | 因果応報(18) |
| | 金科玉条(18) | 月下氷人(18) | 四苦八苦(18) | 晴耕雨読(18) | 切磋琢磨(18) |
| | 傍若無人(18) | 明鏡止水(18) | 合縁奇縁(17) | 一朝一夕(17) | 夏炉冬扇(17) |
| | 虎視眈々(17) | 酒池肉林(17) | 諸行無常(17) | 青天白日(17) | 不俱戴天(17) |
| | 自画自賛(16) | 手前味噌(16) | 同工異曲(16) | 八面六臂(16) | 鷄鳴狗盜(15) |
| | 獅子奮迅(15) | 十年一昔(15) | 是々非々(15) | 南船北馬(15) | 夫唱婦隨(15) |
| | 付和雷同(15) | 老少不定(15) | 異口同音(14) | 一陽来復(14) | 意馬心猿(14) |
| | 慇懃無礼(14) | 遠交近攻(14) | 空中樓閣(14) | 言語道断(14) | 内憂外患(14) |

このほか、四字熟語に準ずる表現として、助詞「の」を持つ次のような表現が28件ある。

- | | | | | | |
|-----|-----------|----------|----------|----------|-----------|
| (2) | 鶴の一声(37) | 他山の石(35) | 漁夫の利(32) | 背水の陣(32) | 螢雪の功(28) |
| | 烏合の衆(27) | 雲泥の差(27) | 鬼の霍乱(27) | 有終の美(26) | 九牛の一毛(26) |
| | 砂上の楼閣(26) | 一日の長(22) | 犬猿の仲(22) | 泥中の蓮(21) | 三顧の礼(19) |
| | 伯仲の間(19) | 青雲の志(18) | 燎原の火(18) | 風樹の嘆(17) | 凌雲の志(17) |
| | 机上の空論(16) | 尾生の信(16) | 亡羊の嘆(16) | 老馬の智(16) | 轍鮒の急(15) |
| | 図南の翼(15) | 内助の功(15) | 喪家の狗(14) | | |

これに対して、韓国語PSリストに含まれる四字熟語は非常に少なく、上位1,460件(度数10以上)では次の4件しかない。

- | | | | | |
|-----|-----------|--------------------|--------|------|
| (3) | 咸興差使 함흥차사 | 〔何の音沙汰もないこと〕 | 【梨の礫】 | (19) |
| | 皮匠罷場 피장파장 | 〔お互いさま〕 | | (16) |
| | 東問西答 동문서답 | 〔ピンとはずれの答え〕 | | (11) |
| | 竜頭蛇尾 용두사미 | 〔始めは立派だが次第に悪くなること〕 | 【竜頭蛇尾】 | (10) |

このような違いは、おそらくことわざに対する日韓の意識の違いから来していると考えられる。日本のことわざはかつて「たとえ」とも呼ばれていたように、表現の比喩性が重要な定義特徴となっている。そのため、比喩的な表現であれば故事成語や四字熟語もことわざとして認識されやすいと考えられる。一方、韓国ではことわざは「俗談(ソクタム)」と呼ばれるように、一般庶民が好んで用いた慣用表現を意味する。つまり、庶民性ということが重要な定義特徴になっている。かつて、漢籍の知識は両班と呼ばれる知識階級、特権階級のものであって、一般庶民のものではなかった。したがって、漢籍に由来する故事成語や四字成語は「俗談」として意識されにくかったと考えられる。

3. FI リスト

日本と韓国のFIリスト（重み付け四字熟語リスト）を作成するために、手元にある日韓の四字熟語辞典のうちリスト作成に適していると考えられる規模のものをそれぞれ10冊ずつ資料として選んだ³。収録件数は辞典ごとにばらつきがあるが、平均収録件数は日本784件、韓国772件で、ほぼ同規模の資料である。

これらの辞典に収録されている四字熟語を、PSリストの作成に用いたのと同じ手順で整理した結果、日本と韓国のFIリストが得られた。そのリストにおける度数別件数分布は次の表1の通りである。度数とは対象にした四字熟語辞典の収録件数を意味する。例えば、10冊の辞典に載っているものは度数10となり、5冊の辞典に載っているものは度数5となる。つまり、多くの辞典に載っているものほど度数が高く、重みがあると考えられる。

表1：四字熟語の度数別件数分布

日 本			韓 国		
度数	件数	累計	度数	件数	累計
10	106(5.3%)	106(5.3%)	10	12(0.4%)	12(0.4%)
9	65(3.3%)	171(8.6%)	9	65(2.0%)	77(2.4%)
8	246(12.4%)	417(21.0%)	8	76(2.3%)	153(4.7%)
7	138(6.9%)	555(27.9%)	7	113(3.5%)	266(8.1%)
6	104(5.2%)	659(33.1%)	6	123(3.8%)	389(11.9%)
5	106(5.3%)	765(38.5%)	5	129(4.0%)	518(15.9%)
4	127(6.4%)	892(44.8%)	4	160(4.9%)	678(20.8%)
3	143(7.2%)	1035(52.0%)	3	259(7.9%)	937(28.7%)
2	218(11.0%)	1253(63.0%)	2	492(15.1%)	1429(43.8%)
1	736(37.0%)	1989(100%)	1	1836(56.2%)	3265(100%)

この分布状況を見ると、総件数は日本が1,989件であるのに対して、韓国が3,265件と、約1.6倍強であること、度数8以上のものは日本が総件数の5分の1を上回るのに対して、韓国が20分の1にも達しないことなどから、韓国のリストの方が分散度がかなり高いことがわかる。これは、両国の四字熟語に対する意識の違いを示しているのかもしれないが、辞書編纂者の項目選定のし方の違いによるとも考えられる。つまり、日本の辞書編纂者は類書を参考にすることが多いために日本語のFI度数の分散度は韓国語に比べて低くなる。

4. 分析

日韓のFIリストで度数の高い四字熟語に注目して、いくつかの観点から分析を試みる。

4.1 日韓とも度数が高いもの

表2は、FI度数が8以上の四字熟語の中から日韓で共通するもの64件を示したものである。

表2：日韓ともにFI度数8以上の四字熟語（64件）

韓 国			日 本			備 考
四字熟語		度数	四字熟語		度数	
以心傳心	이심전심	9	以心伝心	いしんでんしん	10	
一網打盡	일망타진	8	一網打尽	いちもうだじん	10	*
一觸即發	일촉즉발	8	一觸即発	いっしょくそくはつ	10	*
一石二鳥	일석이조	9	一石二鳥	いっせきにちょう	10	*
溫故知新	온고지신	9	溫故知新	おんこちしん	10	* <u>訓読</u> 故きを温ねて新しきを知る
我田引水	아전인수	10	我田引水	がでんいんすい	10	<u>訓読</u> 我が田に水引く
虎視眈眈	호시탐탐	9	虎視眈眈	こしたんたん	10	*
五里霧中	오리무중	9	五里霧中	ごりむちゅう	10	*
七顛八起	칠전팔기	9	七転八起	しちてんはつき	10	* <u>訓読</u> 七転び八起き
四面楚歌	사면초가	8	四面楚歌	しめんそか	10	*
神出鬼沒	신출귀몰	8	神出鬼没	しんしゅつきぼつ	10	*
針小棒大	침소봉대	9	針小棒大	しんしょうぼうだい	10	
自畫自讚	자화자찬	8	自画自賛	じがじさん	10	*
自業自得	자업자득	9	自業自得	じごうじとく	10	
縱橫無盡	종횡무진	8	縱横無尽	じゅうおうむじん	10	*
切磋琢磨	절차탁마	8	切磋琢磨	せつさたくま	10	*
千差萬別	천차만별	8	千差万別	せんさばんべつ	10	*
大器晚成	대기만성	9	大器晩成	たいきばんせい	10	*
大同小異	대동소이	9	大同小異	だいどうしょうい	10	
朝三暮四	조삼모사	8	朝三暮四	ちょうさんぼし	10	*
東奔西走	동분서주	9	東奔西走	とうほんせいそう	10	*
八方美人	팔방미인	8	八方美人	はっぽうびじん	10	韓国語では批判的な意味はない
馬耳東風	마이동풍	9	馬耳東風	ばじとうふう	10	*
附和雷同	부화뇌동	9	附和雷同	ふわらいどう	10	*
粉骨碎身	분골쇄신	9	粉骨碎身	ふんこつさいしん	10	*
傍若無人	방약무인	8	傍若無人	ぼうじゃくぶじん	10	* <u>訓読</u> 傍らに人無きがごとし
優柔不斷	우유부단	9	優柔不斷	ゆうじゅうふだん	10	*
龍頭蛇尾	용두사미	8	龍頭蛇尾	りゅうとうだび	10	*
臨機應變	임기응변	9	臨機応変	りんきおうへん	10	*
一目瞭然	일목요연	8	一目瞭然	いちもくりょうぜん	9	*
一攫千金	일확천금	8	一攫千金	いっかくせんきん	9	*
金科玉條	금과옥조	10	金科玉条	きんかぎよくじょう	9	*
孤軍奮鬪	고군분투	9	孤軍奮闘	こぐんふんとう	9	*
千篇一律	천편일률	8	千篇一律	せんぺんいちりつ	9	*
朝令暮改	조령모개	8	朝令暮改	ちょうれいぼかい	9	*

韓 国			日 本			備 考
四字熟語		度数	四字熟語		度数	
電光石火	전광석화	9	電光石火	でんこうせっか	9	*
有名無実	유명무실	8	有名無実	ゆうめいむじつ	9	*
一言半句	일언반구	9	一言半句	いちげんはんく	8	*
一舉兩得	일거양득	8	一挙兩得	いっきよりようとく	8	*
一瀉千里	일사천리	9	一瀉千里	いっしゃせんり	8	*
隱忍自重	은인자중	8	隱忍自重	いんにんじちょう	8	
會者定離	회자정리	10	會者定離	えしゃじょうり	8	会うは別れ
苛斂誅求	가렴주구	9	苛斂誅求	かれんちゅうきゅう	8	
勸善懲惡	권선징악	8	勸善懲惡	かんぜんちょうあく	8	*
虛心坦懷	허심탄회	8	虛心坦懷	きょしんたんかい	8	
錦上添花	금상첨화	8	錦上添花	きんじょうてんか	8	* <u>訓読</u> 錦上に花を添える
群雄割據	군웅할거	8	群雄割拠	ぐんゆうかつきよ	8	*
牽強附會	견강부회	9	牽強付会	けんきょうふかい	8	*
權謀術數	권모술수	8	權謀術数	けんぼうじゅつすう	8	
主客顛倒	주객전도	9	主客転倒	しゅかくてんとう	8	*
信賞必罰	신상필벌	8	信賞必罰	しんしょうひつばつ	8	*
自繩自縛	자승자박	9	自繩自縛	じじょうじばく	8	
自暴自棄	자포자기	9	自暴自棄	じぼうじき	8	*
戰戰兢兢	전전긍긍	9	戰戰兢兢	せんせんきょうきょう	8	*
大義名分	대의명분	9	大義名分	たいぎめいぶん	8	
泰山北斗	태산북두	8	泰山北斗	たいざんぼくと	8	*
張三李四	장삼이사	9	張三李四	ちょうさんりし	8	*ごくありふれた平凡な人物
同床異夢	동상이몽	8	同床異夢	どうしょういむ	8	*
百尺竿頭	백척간두	9	百尺竿頭	ひゃくしゃくかんと	8	
不俱戴天	불구대천	8	不俱戴天	ふぐたいてん	8	* <u>訓読</u> 俱に天を戴かず(ともにてんをいただかず)
無為徒食	무위도식	8	無為徒食	むいとしょく	8	
明鏡止水	명경지수	8	明鏡止水	めいきょうしすい	8	*
面從腹背	면종복배	10	面從腹背	めんじゅうふくはい	8	*
論功行賞	논공행상	8	論功行賞	ろんこうこうしょう	8	*

調査の対象となった日本語でFI度数が8～10のものと、韓国語でFI度数が8～10のものの四字熟語のうち64件、41.8%が日韓で共通していることになる。日韓の四字熟語がどの程度共通しているかは、より広範囲に調べてみる必要があるが、一応の目安となる数値である。

備考欄に*を付けたものは、中国語にも同じか類似の表現があることを示している⁴。これらはほとんどすべて中国起源であるとみなしてよいであろう。表2の64件のうち49件(76.6%)が中国起源ということになる。中国起源でない四字熟語のうち「我田引水」は日本で作られた四字熟語であることが知られているものであり、これが日本統治期に韓国語に入ったと考えられる。そのほか、「以心伝心」「針小棒大」「自業自得」「大同小異」「八方美人」「隱忍自重」「虛心坦懷」「權謀術数」「自繩自縛」「大義名分」「百尺竿頭」「無為徒食」などが、

日本か韓国で作られて韓国語、日本語に移入されたと考えられる。その移入の方向が日本から韓国であったのか、韓国から日本であったのかは、それぞれの初出年代を丹念に調べないとわからない。日本統治期には日本語語彙が大量に韓国語に入っていることから、その中に四字熟語が含まれていたとしても不思議ではないし、より古い時代には朱子学をはじめとする漢学ともに韓国から日本に入ってきた可能性もある。

「八方美人」は日韓で意味が微妙に異なる。日本では「誰にでもいい顔をする人」というような非難めいた意味が含まれるが、韓国では「何事にも優れている人」という意味で誉め言葉として使われるのが普通である。「一石二鳥」は西洋語起源であるとされている⁵が、中国語にもあるということが興味深い。それぞれの言語で独自に作られたのか、あるいは移入関係があるのか、その成立の経緯は今後の検討課題である。

備考欄に示したように、日本では四字熟語とともにそれを訓読（読み下し）した表現も用いられているものがある。「温故知新」「我田引水」「傍若無人」「不俱戴天」などは四字熟語、訓読表現のどちらもよく用いられるが、「七転八起」「錦上添花」などは訓読するのが一般的である。

4.2 日本では度数が高いが韓国では度数が低い四字熟語

次に、日本と韓国で重みに大きな違いがある四字熟語を見ると、日本のFI度数が8以上の四字熟語のうち韓国のFI度数が2以下のものは、次の表3に示す55件である。

表3：日本FI度数9以上で韓国FI度数2以下の四字熟語（55件）

日 本			韓 国			備 考
四字熟語		度数	四字熟語		度数	
一期一会	いちごいちえ	10			0	
一念發起	いちねんほつき	10	一念發起	일념발기	0	
一望千里	いちぼうせんり	10	一望千里	일망천리	0	
一喜一憂	いっさいちゆう	10	一喜一憂	일희일우	0	一喜一悲일희일비とも
疑心暗鬼	ぎしんあんき	10	疑心暗鬼	의심암귀	0	
玉石混淆	ぎょくせきこんこう	10	玉石混淆	옥석혼효	0	*
質実剛健	しつじつごうけん	10	質実剛健	질실강건	0	
順風満帆	じゅんぷうまんぱん	10			0	滿帆順風만범순풍
正真正銘	しょうしんしょうめい	10			0	
枝葉末節	しょうまつせつ	10			0	
前人未到	ぜんじんみとう	10			0	* 韓前人未踏전인미답(4) 日前人未踏(4)
大胆不敵	だいたんふてき	10			0	大膽無雙대담무쌍
猪突猛進	ちょとつもうしん	10			0	猪突之勇저돌지용(1)
独立独歩	どくりつどっぽ	10	獨立獨步	독립독보	0	
油断大敵	ゆだんたいてき	10			0	
一意専心	いちいせんしん	9	一意専心	일의전심	0	
一部始終	いちぶしじゅう	9			0	自初至終자초지종
海千山千	うみせんやません	9			0	山戰水戰산전수전
傍目八目	おかめはちもく	9			0	
欣喜雀躍	きんきじゃくやく	9	欣喜雀躍	흔희작약	0	驚喜雀躍경희작약
大願成就	たいがんじょうじゅ	9			0	所願成就소원성취(1)

日 本			韓 国			備 考
四字熟語		度数	四字熟語		度数	
大言壯語	たいげんそうご	9	大言壯語	대언장어	0	大言壯談대언장담(1)
天罰靚面	てんばつてきめん	9			0	
二束三文	にそくさんもん	9			0	
百戦錬磨	ひゃくせんれんま	9			0	
不即不離	ふそくふり	9	不即不離	부즉불리	0	
無病息災	むびょうそくさい	9			0	
喜怒哀楽	きどあいらく	10	喜怒哀樂	희로애락	1	*
四苦八苦	しくはっく	10	四苦八苦	사고팔고	1	*
新進氣鋭	しんしんきえい	10	新進氣鋭	신진기예	1	
天變地異	てんぺんちい	10	天變地異	천변지이	1	
日進月歩	にっしんげつぽ	10	日進月歩	일진월보	1	*
不言実行	ふげんじっこう	10	不言實行	불언실행	1	
平身低頭	へいしんていとう	10	平身低頭	평신저두	1	
無我夢中	むがむちゅう	10	無我夢中	무아몽중	1	
一衣帶水	いちいたいすい	9	一衣帶水	일의대수	1	
時代錯誤	じだいさくご	9	時代錯誤	시대착오	1	
初志貫徹	しょしかんてつ	9	初志貫徹	초지관철	1	初志一貫(6)
南船北馬	なんせんほくば	9	南船北馬	남선북마	1	
破顔一笑	はがんいっしょう	9	破顔一笑	과안일소	1	破顔大笑(5)
百花繚亂	ひゃっかりょうらん	9	百花繚亂	백화요란	1	
平穩無事	へいおんぶじ	9	平穩無事	평온무사	1	
粒粒辛苦	りゅうりゅうしんく	9	粒粒辛苦	입립신고	1	
一心不乱	いっしんふらん	10	一心不亂	일심불란	2	*
花鳥風月	かちょうふうげつ	10	花鳥風月	화조풍월	2	*
空前絶後	くうぜんぜつご	10	空前絶後	공전절후	2	*
三寒四溫	さんかんしおん	10	三寒四溫	삼한사온	2	
七転八倒	しちてんぱっとう	10	七顛八倒	칠전팔도	2	
半死半生	はんしはんしょう	10	半死半生	반사반생	2	
雲散霧消	うんさんむしょう	9	雲散霧消	운산무소	2	
君子豹變	くんしひょうへん	9	君子豹變	군자표변	2	
才色兼備	さいしょくけんび	9	才色兼備	재색겸비	2	
盛者必衰	じょうしゃひつすい	9	盛者必衰	성자필쇠	2	*
前途洋洋	ぜんとうようよう	9	前途洋洋	전도양양	2	
同工異曲	どうこういきよく	9	同工異曲	동공이곡	2	

度数0というのはFIリストに含まれていないということであるが、それはかならずしも韓国語にその四字熟語がないということではない。FIリスト作成の資料とした辞典にたまたま載っていないだけで実際には存在するものもある。項目数が多い韓国語辞典などを調べて韓国語にもあると確認できた四字熟語は、韓国語の表現を示した。また表現は異なるが、同じか類似の意味を持つ四字熟語がある場合には、それを備考欄に示した。

表2の場合と同様に、備考欄に＊を付けたものは、中国語起源と考えられるものであることを示す。55件のうちわずか9件(16.4%)しかなく表3の類の四字熟語は韓国での度数が低いことから考えてその多くがおそらく日本で独自に作られた表現であると推測され

る。

4.3 韓国では度数の高いが日本では度数の低い四字熟語

一方、韓国のFI度数が8以上の四字熟語で日本の度数が2以下のものを挙げると、次の表4の70件である。

表4：韓国FI度数8以上で日本FI度数2以下の四字熟語（70件）

韓 国			日 本			備 考
四字熟語		度数	四字熟語		度数	
錦衣還郷	금의환향	10	錦衣還郷	きんいかんきょう	0	*錦を着て故郷に帰る。故郷に錦を飾る
勞心焦思	노심초사	10			0	心を痛めて気をもむこと
白衣從軍	백의종군	10	白衣從軍	はくいじゅうぐん	0	*官位のない人が戦地に赴くこと
烏飛梨落	오비이락	10			0	*偶然の一致のためにあらぬ疑いをかけられること
雨後竹筍	우후죽순	10			0	雨後の筍
晝耕夜讀	주경야독	10			0	*忙しいときにも勉強に励むこと
衆口難防	중구난방	10			0	*人の口に戸は立てられぬ
刻骨難忘	각골난망	9			0	受けた恩が骨に刻まれるほど 忘れられないこと
改過遷善	개과천선	9	改過遷善	かいかせんぜん	0	自らの過ちを改めて良い道へ戻ること
見物生心	견물생심	9			0	*ものを見ると欲が出ること
苦盡甘來	고진감래	9			0	*苦あれば楽あり
骨肉相爭	골육상쟁	9			0	*骨肉相食(1)
過猶不及	과유불급	9			0	* 訓読 過ぎたるは猶及ばざるがごとし
口尙乳臭	구상유취	9	口尙乳臭	こうしょうにゅうしゅう	0	年が若すぎて経験がないこと
同價紅裳	동가홍상	9			0	韓 同じ値段なら紅いチマ
杜門不出	두문불출	9			0	*門外不出(8)
百年偕老	백년해로	9			0	*末永く夫婦仲良く共に暮らすこと
百折不屈	백절불굴	9			0	*百折不撓(ひやくせつふとう)(5)
砂上樓閣	사상누각	9			0	砂上の樓閣
事必歸正	사필귀정	9			0	*何事もいつかは正しい姿に戻る
雪上加霜	설상가상	9	雪上加霜	せつじょうかそう	0	* 訓読 雪上に霜を加う
束手無策	속수무책	9	束手無策	そくしゅむさく	0	*どうする方法もなく何もできないこと
十匙一飯	십시일반	9			0	*みんなで力を合わせれば人一人ぐらいは助けられる
眼下無人	안하무인	9			0	*傍若無人
言中有骨	언중유골	9			0	*話の中に深い意味があること
易地思之	역지사지	9			0	*相手の身になって思うこと
有備無患	유비무환	9	有備無患	ゆうびむかん	0	* 訓読 備えあれば患いなし
類類相從	유유상종	9			0	類は友を呼ぶ、類を以て集まる
賊反荷杖	적반하장	9			0	盗人猛々しい
鳥足之血	조족지혈	9			0	雀の涙
走馬加鞭	주마가편	9			0	*走り馬にも鞭。拍車をかけること
走馬看山	주마간산	9			0	*走馬看花(1)。忙しくて何事も大雑把に見ること
竹馬故友	죽마고우	9			0	*竹馬之友(7)
天方地軸	천망지축	9			0	あたふたすること
風前燈火	풍전등화	9			0	風前之灯(6)
鶴首苦待	학수고대	9			0	*人を待ち焦がれること

韓 国			日 本			備 考
四字熟語		度数	四字熟語		度数	
鶏卵有骨	계란유골	8			0	運の悪い人は何かをしようと思わぬ邪魔が入ってうまく行かないこと
多多益善	다다익선	8			0	*多ければ多いほどよい
東問西答	동문서답	8			0	*とんちんかんな答え
燈下不明	등하불명	8			0	*灯台下暗し
目不識丁	목불식정	8			0	目に一丁字もなし
目不忍見	목불인견	8			0	*可哀そうで見ると忍びないこと
四顧無親	사고무친	8			0	頼るべき人がいないこと
殺身成仁	살신성인	8	殺身成仁	さっしんせいじん	0	*自分の命を犠牲にして、世のため人のために尽くすこと
三人成虎	삼인성호	8			0	*訓読三人虎を成す。根拠のないことでも大ぜいの人が言いだすと、やがて事実として受け入れられてしまうこと
手不釋卷	수불석권	8			0	*いつも書物から手を離さない勉強家であること
始終一貫	시종일관	8			0	*終始一貫
梁上君子	양상군자	8			0	*梁上の君子
魚頭肉尾	어두육미	8			0	獣の肉は尾が、魚は頭が一番おいしい
烏合之卒	오합지졸	8			0	*烏合之衆(7)
樂山樂水	요산요수	8			0	*自然を愛すること
牛耳讀經	우이독경	8			0	訓読牛の耳に経を読む。牛に経読み
仁者無敵	인자무적	8	仁者無敵	じんしゃむてき	0	*訓読仁者は敵なし。徳の備わった人には敵はいないということ
一絲不亂	일사불란	8	一糸不乱	いっしふらん	0	訓読一糸乱れず
日就月將	일취월장	8	日就月將	にっしゅうげっしょう	0	*日進月歩
前無後無	전무후무	8			0	空前絶後
左之右之	좌지우지	8			0	思いのまま、意のままにすること
左衝右突	좌충우돌	8			0	*八つ当たり、あたりちらすこと
青出於藍	청출어람	8			0	*訓読青は藍より出でて
卓上空論	탁상공론	8			0	机上の空論
燈火可親	등화가진	9	灯火可親	とうかかしん	1	訓読灯火親しむべし
反哺之孝	반포지효	9			1	反哺の孝。子供が、育ててくれた親の恩に報いて孝行すること。
兔死狗烹	토사구팽	9	兔死狗烹	としくほう	1	*訓読兔死して狗(いぬ)烹らる
桑田碧海	상전벽해	8	桑田碧海	そうでんへきかい	1	*世の中の変化が激しいこと
一場春夢	일장춘몽	8			1	*一場の春夢(いちじょうのしゅんむ)。栄華のはかないことのたとえ
轉禍爲福	전화위복	8	転禍為福	てんかいふく	1	*訓読禍転じて福と為す
山海珍味	산해진미	9			2	*山海の珍味
緣木求魚	연목구어	8			2	*訓読木に縁りて魚を求む
好事多魔	호사다마	8	好事多魔	こうじたま	2	*訓読好事魔多し
後生可畏	후생가외	8	後生可畏	こうせいがい	2	訓読後世畏るべし

ここでもやはり、日本のFI度数が0のものでも国語辞典などに記載のあるものについてはその表現を示しておいた。同じか類似の意味を持つ四字熟語、訓読表現、ことわざなどがある場合にはそれを備考欄に示した。また、適宜、意味解説を記した。

この類でも、中国語に同じか類似の四字成語が見られるもののがかなりあるが、その数は70件中46件(65.7%)と表3の場合に比べて顕著に多い。中国語に同じか類似の四字熟語が

ないものは24件(34.3%)で、これらのほとんどは韓国で独自に作られたものであると思われる。同じ漢字文化圏に属していながら独自に作られた四字成語の数に日本と韓国の間に顕著な差があるのは、中国や中国語との距離の違いによると考えられる。韓国ではかつて中国語は公用文章語であったし、陸続きの中国との直接的接触があった。一方、日本は江戸時代の鎖国政策のために、長い間中国との直接的接触がなかった。そのために、四字熟語を含む漢字語の発達が韓国では中国語の影響を密接に受けながら進められたのに対して、日本では漢字の造語力によって独自の発達を遂げる余地が大きかったのではないかと考えられる。このことは、明治期に西洋から文物、概念が流入したとき、日本で膨大な量の和製漢字語が作られたこととも相通じることであると思われる。

以上に見たようなFI度数の高いものはすべて狭義の四字熟語であるが、FI度数の低いものの中には狭義の四字熟語ではなく単なる複合語と思われるものが多数含まれる。いくつかの例を挙げると、次のようなものがある。

【日本】

現状維持 自己暗示 職権乱用 責任転嫁 潜在意識 粉飾決算 誘導尋問 連鎖反応〔以上度数2〕
 印象批評 越権行為 遠隔操作 応急措置 拡大解釈 過大評価 過当競争 感情移入
 希少価値 帰巢本能 行儀作法 強迫観念 健康寿命 自己啓発 自己嫌悪 事後承諾
 質疑応答 執行猶予 終身雇用 趣旨説明 世代交代 刹那主義 先制攻撃 人間不信
 風俗習慣 福利厚生 平衡感覚 陽動作戦 累進課税〔以上度数1〕

【韓国】

拒否反応 固定観念 物物交換 世代交替 連鎖反応 自然淘汰 兄弟姉妹 稀少価値〔以上度数2〕
 加工食品 家宅搜索 幹線道路 簡易食堂 減價償却 監督官廳 強迫観念 皆勤賞状
 個性尊重 開催場所 健康診断 建築設計 決議機関 啓蒙運動 高温多湿 公共機関
 共同出資 控訴時効 過大評価 過敏対応 官僚政治 管絃樂團 鑛脈發見 校歌齊唱
 教壇生活 郊外散策 膠着状態 交替人員 求急丸藥 丘陵地帯 具備書類 拘束令狀
 國旗掲揚 國寶展示 國際空港 國際貿易 軍國主義 宮廷文學 拳銃亂射 勤續年限
 金權政治 禁獵區域 肯定判斷 紀念植樹 氣象觀測 技術提携 企業經營 基礎知識〔以上度数1⁶⁾〕

4.4 重みと使用頻度

四字熟語の「重み」というのは複合的な概念であって、いくつかの要件によって規定されるものである。中でも、四字熟語がどの程度知られているか（認知度）とどの程度使われているか（使用頻度）の2点が重要であると思われる。認知度についてはかなり大規模な調査をしなければならないが、使用頻度に関しては比較的簡便な方法がある。コーパス調査による方法である。本稿では日韓のFIリストの上位約500件の四字熟語(FI度数で言えば、日本語は度数7以上、韓国語は度数5以上のもの)を対象として調査を行った。使用したコーパスは、日本語は筑波大学のTsukuba Web Corpus (NINJAL-LWP for TWC)⁷⁾、韓国語は現代韓国語用例検索機のSJ-RIKS ext.⁸⁾である。

調査の結果、ヒット数の多かった四字熟語を挙げると表5のようになる。日本の四字熟語はヒット数1000以上のもの33件、韓国はヒット数300以上のもの34件である。

表5：コーパス調査でヒット数の多い四字熟語

日 本			韓 国		
四字熟語	FI 度数	ヒット数	四字熟語	FI 度数	ヒット数
試行錯誤	8	6134	不可思議	불가사의	9 971
新陳代謝	7	3986	迂餘曲折	우여곡절	5 863
一目瞭然	9	3663	束手無策	속수무책	9 809
臨機応変	10	3071	横説堅設	횡설수설	6 674
三位一体	9	2842	戰戰兢兢	전전공공	9 654
公序良俗	8	2480	意氣揚揚	의기양양	7 645
千差万別	10	2455	自初至終	자초지종	6 584
本末転倒	9	2242	名實相符	명실상부	6 579
半信半疑	10	2224	右往左往	우왕좌왕	6 535
興味津津	9	1827	自暴自棄	자포자기	9 528
一石二鳥	10	1804	左之右之	좌지우지	8 503
冠婚葬祭	7	1672	流言蜚語	유언비어	6 486
和氣藹藹	10	1645	始終一貫	시종일관	8 470
自給自足	9	1635	曖昧模糊	애매모호	6 468
紆余曲折	8	1542	一絲不亂	일사불란	8 450
他力本願	7	1497	氣盡脈盡	기진맥진	5 446
喜怒哀樂	10	1465	深思熟考	심사숙고	6 387
表裏一体	7	1437	非一非再	비일비재	5 378
大義名分	8	1322	魂飛魄散	혼비백산	5 358
適材適所	10	1252	異口同聲	이구동성	7 351
自業自得	10	1232	愛之重之	애지중지	6 350
優柔不斷	10	1232	虛心坦懷	허심탄회	8 348
一朝一夕	10	1212	雪上加霜	설상가상	9 339
前代未聞	10	1211	東奔西走	동분서주	9 338
弱肉強食	10	1181	千差萬別	천차만별	8 335
荒唐無稽	8	1155	優柔不斷	우유부단	9 330
二者択一	7	1146	半信半疑	반신반의	6 328
疑心暗鬼	10	1137	茫然自失	망연자실	7 322
正真正銘	10	1111	滿身創痍	만신창이	5 320
十人十色	9	1109	率先垂範	솔선수범	5 316
一長一短	10	1089	徹頭徹尾	철두철미	6 315
全身全靈	8	1038	有名無實	유명무실	8 314
一期一会	10	1010	森羅萬象	삼라만상	7 303
			波瀾萬丈	파란만장	6 300

ヒット数が日韓で大きく異なるが、コーパスの規模を考えればむしろ韓国の方が四字熟語の使用頻度が高いように思われる。ただ、注7と8に示したようにコーパスの内容も異なるため断言はできない。「千差万別」「半信半疑」「紆余曲折」「優柔不斷」の4件が日韓共通してヒット数が多いが、このことから大して意味のあることは推測できない。日韓で共通してよく用いられる四字熟語があるという事実を示すにとどまる。これら以外にも共通によく用いられるものがあると思われるが、コーパス規模など条件を同じにしてさらに

詳細に調査をしてみないとやはり確かなことは言えない。

日本の四字熟語では「臨機応変」「千差万別」「半信半疑」など度数10のものが16件ヒット数上位に含まれているが、韓国の場合には度数10のものが1つも含まれていない。ヒット数が少ないものに目を向ければ、次のような四字熟語は、FI度数が10であるのにヒット数が0である。

【日本】(19件)

一念發起 一心同体 意味深長 快刀乱麻 完全無欠 言行一致 公平無私 自画自賛 質実剛健 縦横無尽
自由自在 順風満帆 枝葉末節 支離滅裂 新進気鋭 大胆不敵 不言実行 傍若無人 用意周到

【韓国】(1件)

會者定離(회자정리)

逆に、日本語の「新陳代謝」「冠婚葬祭」「表裏一体」「二者択一」や、韓国語の「迂餘曲折」「氣盡脈盡」「非一非再」「魂飛魄散」「率先垂範」などのように、FI度数が比較的低い四字熟語がヒット数上位にきている例もある。

このような例を見ると、FI度数と使用頻度の関係はあまり単純明快ではないことがわかる。そこで、FI度数上位500件に関して度数別にコーパスヒット数の平均を調べてみると、結果は次のようであった。

表6：FI度数別コーパスヒット数の平均

日 本			韓 国		
FI度数	件数	ヒット数	FI度数	件数	ヒット数
10	106	425.8	10	12	131.3
9	65	319.1	9	65	139.4
8	246	115.7	8	76	92.1
7	138	122.1	7	113	75.8
			6	123	98.9
			5	129	62.7

この結果を見る限り、整然とした関係ではないが、総体的に見ればFI度数と使用頻度との間には、度数の高いものほどよく使われる傾向がある、というある程度の相関があるように思われる。同じ慣用的な表現でも、ことわざの場合にはPS度数と使用頻度の間にあまり相関がないことが知られているが、それと顕著な対照を示す事実である⁹。

しかし、先にも述べたように、FI度数の表す四字熟語の重みは複合的な概念であって、使用頻度はそれを規定する基準の1つであるにすぎない。したがって、個別的に見れば、FI度数の高い四字熟語の使用頻度が低く、逆にFI度数の低いものがよく用いられることがあっても不思議なことではない。

5. まとめと今後の課題

本稿では、日本と韓国で出版されている四字熟語辞典を資料として作成したFIリストに基づいて分析を試みた。その結果、次のようなことが明らかになった。

- ① 日本ではことわざ辞典の中に四字熟語が含まれることが、韓国に比べて顕著に多

い。これはことわざに対する意識の違いの差によるものと思われる。

- ② 日韓ともにFI度数の高い四字熟語は大多数が中国起源であると考えられる。
- ③ 日本ではFI度数が高いが韓国では低い四字熟語には、中国語に同じか類似の表現のないものが8割強ある。これらのほとんどは日本で独自に作られたものと考えられる。
- ④ 韓国ではFI度数が高いが日本では低い四字熟語には、中国語に同じか類似の表現のないものは3割強に過ぎない。これらのほとんどは韓国で独自に作られたものと考えられる。
- ⑤ 同じ漢字文化圏に属していながらも、日韓で独自に作られた四字熟語の数に顕著な違いが見られるのは、日韓両文化の中国・中国語との距離の違いによると思われる。
- ⑥ FIリストの度数とコーパス調査による使用頻度の間には緩い相関があるように思われる。しかし、FI度数が表す四字熟語の重みは複合的な概念であり、使用頻度はそれを規定する基準の1つに過ぎないため、この相関に反する例は多数ある。

本稿の考察の問題点は2つある。1つは、分析の精度あるいは深さの問題である。本稿は、四字熟語に関する新しい分析法を紹介することが主目的であるために、手始めとして比較的处理しやすい問題を取り上げたに過ぎない。したがって、上にあげたような知見は、特に目を引くようなことではなく、これまでも漠然と感じられていたことに過ぎないかもしれない。しかし、従来「漠然と感じられていたこと」を客観的、非恣意的な手順で確かめることも科学的考察の重要な役割である。その意味では本稿はある程度目的を達成したと考える。

「八方美人」に関して述べたような日韓の意味の違いは、対照研究における重要な問題であるが、今回は全く手を付けていない。今後の研究課題である。

2つ目の問題点は、分析の基盤としたFIリストの精度の問題である。資料とした四字熟語辞典が10冊であったというのは、一応FIリストを作成することはできても、その信頼性を保証するにはいかにも少ないように思われる。ことわざの場合ほど多くの資料を得ることはできないが、できるだけ多くの辞典や四字熟語集を集めて、FIリストの信頼性を高めることが今後の最重要課題である。FIリストの信頼性が高まれば、それに基づく分析の説得力が増すであろうし、新しい発見への糸口になるかもしれない。

【付記】 本稿は、2017年11月11日（土）に明治大学において開催された日本ことわざ文化学会第8回大会で口頭発表した内容を加筆・訂正したものである。

注

- 1 韓国国会電子図書館のホームページ (<https://www.nanet.go.kr/main.do>) で「四字熟語」で文献検索すると、53編の学位論文がヒットするが（2018年4月11日現在）、中国語と韓国語の比較が多く21編あった。日韓の比較はない。韓国語教育の観点から見たものとしては、박민정(2011)『일본인 학습자를

- 위한 한자 사자성어 연구 (日本人学習者のための漢字四字熟語研究)』(東国大学大学院修士論文)が1編あった。
- 2 ハングル能力検定協会編 (2006) 『「ハングル」検定公式ガイド合格도우미ー合格レベルと語彙リストー上級編』 pp.186-188
 - 3 資料とした四字熟語辞典は、稿末に＜FIリスト作成の資料とした辞典＞として挙げておいた。[]内は収録件数。
 - 4 中国の四字熟語は NAVER 辞典 (<http://dic.naver.com>) で検索した後、中国語母語話者のチェックを受けた。
 - 5 北村孝一 (2003) 『ことわざの謎 歴史に埋もれたルーツ』 光文社新書、pp.21-24
 - 6 度数1のものは数が多すぎるので、[K]音で始まるものだけを挙げた。度数1の疑わしい表現のほとんどは資料リスト8番の辞典に集中している。そのことについて編纂者は何もコメントしていない。
 - 7 Tsukuba Web Corpus (NINJAL-LWP for TWC) (<http://nlt.tsukuba.lagoinst.info/search/>) (2018年4月17日から8月10日まで検索)。約11億語のコーパスツール。
 - 8 SJ-RIKS ext. (SRE) (<http://riksdb.korea.ac.kr/sjriks/sjriks.jsp>) (2018年4月18日から8月10日まで検索)。規模は約1億2千語節であるが、今回の調査ではそのうちの本(創作)、新聞、雑誌、情報4つのジャンル(約4千語節)について検索を行った。
 - 9 このことはことわざ学会第29回ことわざフォーラム(2017年11月25日杏林大学で開催)で武田勝昭氏によって指摘されている。

参考文献

- ことわざ研究会編 (1997) 『ことわざ学入門』 遊戯社
 北村孝一 (2003) 『ことわざの謎 歴史に埋もれたルーツ』 光文社新書
 ハングル能力検定協会編 (2006) 『「ハングル」検定公式ガイド合格도우미ー合格レベルと語彙リストー上級編』
 鄭芝淑 (2007) 『日本と韓国のことわざの比較研究—ことわざスペクトルと比較ことわざ学—』 名古屋大学大学院博士論文

＜FIリスト作成の資料とした辞典＞

その一覧と各辞典の収録件数は以下のとおりである。

【日本】

- ① 鳥羽田重直監修 『ポケット版四字熟語辞典』 成美堂出版、2000年 [937件]
- ② 西岡弘監修 『スピーチや文章作成に使える四字熟語新辞典』 梧桐書院、2001年 [939件]
- ③ 学研辞典編集部編 『四字熟語実用辞典』 学研、2002年 [920件]
- ④ 三省堂編修所編 『三省堂ポケット四字熟語辞典』 三省堂、2005年 [835件]
- ⑤ 金田一春彦監修 『小学生のまんが四字熟語辞典』 学研、2005年 [195件]
- ⑥ 故事・ことわざ研究会編 『早引き四字熟語辞典』 ナツメ社、2005年 [868件]
- ⑦ 現代言語研究会編 『日本語を使いさばく四字熟語の辞典』 あすろ出版、2007年 [1201件]
- ⑧ ことばハウス編 『なるほど！四字熟語じてん』 西東社、2010年 [150件]
- ⑨ 小峯和明 『ポケット版四字熟語辞典』 高橋書店、2010年 [856件]
- ⑩ 高橋書店編集部編 『ポケット版実用四字熟語新辞典』 高橋書店、2015年 [942件]

【韓国】

- ① 尹景喜 『현대인이 알아야 할 四字成語』 태학사, 1998 [680件]

- ② 우리한문학회編『四字成語』월인, 2000 [417件]
- ③ 김현경·김주희『삶의 지혜로 가득한 선인들의 이야기① 四字成語』학일출판사, 2002 [566件]
- ④ 한자생활연구회編『단 한권으로 끝내는 사자성어 BEST』지식의샘, 2007 [574件]
- ⑤ 김동구『우등생 새국어사전』명문당, 2007 [515件]
- ⑥ 최석두『반드시 알아야 할 사자성어』시간과 공간사, 2008 [894件]
- ⑦ 金振男『사자성어 활용사전』도서출판 큰방, 2010 [1760件]
- ⑧ 김동길『敎學四字成語辭典 수정증보판』교학사, 2013 [1303件]
- ⑨ 김한진『중학생이 꼭 알아야 할 사자성어 쓰기 650』모든북, 2015 [648件]
- ⑩ 우리한문학회編『사자성어 따라쓰기 365+』문자향, 2016 [366件]